



研究者 **屋代遊学会**（千曲市立屋代中学校）
共同研究者 **村瀬公胤**（麻布教育研究所 所長）

テーマ
教科複合的視点から編む学びのデザイン
#子どもを軸に #同じ仕組み #違う見方

教科の枠を超えて目指すもの

私たちの屋代遊学会の研究メンバーは、教科も経験年数もばらばら。でも、全員の目指すものは似ていて…。「学び」ってなに？「学ぶ」ってどういうこと？最初は、それぞれが日頃の授業で感じていることを出し合いながら、課題となっていることを話し合いました。「導入でしっかり教えているうちに生徒が授業から離れていく」「練習して応用してほしいけれど、なかなかできない」「知識・技能、思考・判断・表現って、結局どういう力？どうすればつくの？」もちろん、教科の特性はあるけれど、それ以上に共通していることがたくさんあることにも気がつきました。

6月、共同研究者の村瀬先生にそれぞれの授業を見ていただきました。その後の研究会でこのような助言をいただきました。「遊びは自分のためだからいつでも本気。お勉強は他人事だから頭が働かないし、身につかない。未熟なホンモノと、完璧なニセモノ」私たちはその一言を聞いて、自分たちの授業が後者であり、子どもに与えるものに陥っていないか、とハッとしました。教師が教えようとすればするほど、子どもが学ぶべき力を使って遊ぶ時間を奪っている。むしろ、子どもは教師から離れた瞬間に、自ら「学ぶ」ようになるのではないか。そこにこそ学習の本質があるのではないだろうか。

少しずつ見えてきた課題と共に、私たちは以下のデザインで授業実践を行おうと考えています。

- ①「問い」に出会い－各教科による見方から事象へのアプローチを促す
- ②遊んで馴染み－自身で学び得ていく過程を見守り、支援する
- ③掴んで我が物にする－手にしたものや成果をみとり、共有する

この学びの仕組みは教科全体に通ずるものであり、共通・共有すべきものだと私たちは考えています。目の前にいる子どもを軸にしながら、それぞれの教科の実践から見えた共通点、相違点を整理し、日々研究を進めています。



共同研究者 村瀬先生から

「学び」＝「遊び」であると大胆に主張する研究です。覚えさせる授業やテストで測れる学力を超え、また教科の壁や学校という枠組みも乗り越えて、「真正の学び」と「社会に開かれた教育課程」をつなぐ挑戦に期待します。

～日程～

① 開会式・研究説明	10:00～10:25
② 授業公開Ⅰ（3校時）	10:35～11:25
③ 授業公開Ⅱ（4校時）	11:35～12:25
④ 昼食	12:30～13:30
⑤ ワークショップ（授業研究会）	13:40～15:10
⑥ 閉会式	15:20～15:30